

【特色ある取組】 地域とともに防災・減災・復興に貢献できる人材を養成

和歌山大学では、毎年、防災士を養成するための「防災士養成講座」を開催している。この講座は、NPO法人日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格を得られるもので、「令和2年度防災士養成講座」(3月8・9日)では、33名の学生が受講。



「むすぼら」発足 2021/3/11

また、2021年3月11日には和歌山大学災害ボランティアステーション「むすぼら」を発足。防災イベントなどの活動を通じて、防災・減災・復興の担い手づくりに取り組んでいる。

さらに、国立大学初の取組として(一社)日本非常食推進機構と連携協定を締結し、防災備蓄食を活用したSDGs推進の取組として、大学食堂で備蓄食のリメイク料理の提供などを通じ学生の防災意識啓発を図っていくこととしている。



日本非常食推進機構と連携協定 2021/5/7



県社協との合同訓練 2021/2/20

<和歌山県社会福祉協議会(県社協)との連携による合同訓練>
2021年2月には、県社協が毎年主催する災害対応訓練に、外部機関として初めて本学が参加。県内2箇所の社協と本学の計3箇所が会場となり、「局所豪雨による水害が発生、川を挟んで孤立」という想定のもと、大学と社協とに分かれて災害ボランティアセンターを設置し、教職員や学生も参加し本格的な訓練を実施した。(県社協とは連携協定を締結し、職員を学内研究員として迎え、共同で様々な取組を実践。)

【期待できる成果・評価】 紀伊半島大水害から10年、南海トラフ地震など今後の大規模災害に備えた地域の防災へ貢献

東日本大震災の半年後に発生した紀伊半島大水害から10年。和歌山県唯一の国立大学として、災害の調査・研究の知見を地域に還元し、地域と共に防災・減災への取組を積極的に実践している。2020年4月に地域連携の新たな拠点として「紀伊半島価値共創基幹」を設置し、大学全体として南海トラフ地震など大規模災害に対応した新しい防災システム開発への取組を通じて、地域と共にレジリエントな社会の実現を目指す。



災害科学・レジリエンス共創センター

<http://www.wakayama-u.ac.jp/disaster/>

紀伊半島価値共創基幹 (Kii-Plus)

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/>